

中国企業における生成AIの知財活用に関する調査レポート（2025年10月時点）

調査の目的と構成

このレポートでは、2025年10月時点における中国企業の知的財産（IP）分野での生成AI活用状況を調査し、その特徴・メリット・リスク、関連する法的論点および将来の展望をまとめる。ユーザーの指定に従い、以下の点を重点的に調査した。

1. **生成AIの活用範囲とユースケース** – 中国企業は知財分野でどのように生成AIを利用しているか。具体例として先行技術調査、特許明細書ドラフト作成、商標クリアランス調査、契約書分析など。
2. **生成AIを導入している中国企業とその事例** – 公表されている事例を収集し、各社の取り組み内容を紹介する。
3. **IP分野向け生成AIツール／サービスを提供する企業** – 各ツールの特徴を比較する。
4. **生成AI活用がもたらす影響** – 研究開発の加速やコスト削減といったメリットと、正確性・機密情報漏洩などのリスクを整理する。
5. **生成AIと知的財産権に関する法的論点** – AIが生成した発明や著作物の発明者・著作権者認定に関する中国国内の議論や判例を調査する。
6. **行政・規制当局の動き** – 国家知識産権局（CNIPA）や政府が示したガイドラインや政策を確認する。
7. **今後のトレンドと展望** – 調査会社や法律事務所のレポートを踏まえ、将来予測をまとめる。

1. 生成AIの利用範囲と具体的ユースケース

1.1 先行技術調査と検索効率化

- ・ **AIによる意味検索／多模態検索** – 大手知財データサービス企業の星河智源（Mind Flowing）は、GPTを用いた特許データ深加工モデルを開発し、文書だけでなく画像でも検索可能な多模態検索を提供する。高精度な語義解析と多言語対応により、従来型検索より高精度な先行技術調査を実現している ¹。
- ・ **AIによる検索戦略自動生成** – incoPatは大型言語モデルを用いて「智能检索策略」モードを実装し、ユーザーが入力した技術説明から自動で検索式を構築する。自然言語処理と“特許DNAマップ”アルゴリズムにより、発明の核心要素と関係を抽出し、先行技術や無効化調査の精度を向上させている ²。
- ・ **生成AIを用いた技術調査レポート作成** – CNKIと中国專利信息中心が共同開発した「AI Pat+」は1.8億件の特許と6億件の学術文献を統合し、ベクトル検索によって特許と学術情報を同時に検索できる。生成AIが技術課題・効果などの要素を抽出し、特許文献と論文の分析レポートを自動生成する ³。

1.2 特許明細書・交底書の自動作成

- ・ **中国移動（China Mobile）の「智写專利」「九天・魯班AI」** – 中国移動研究院は大規模言語モデル「九天」を搭載した「智写專利」を開発。発明者が技術点を入力すると、AIが重要要素を抽出し、技術内容を拡張して技術交底書の初稿を生成する。專利代理人が内容を確認・修正することで審査品質を確保している ⁴。中国移動設計院は同モデルとDeepSeek R1を組み合わせた「魯班AI」を導入し、明細書作成の効率を約50 %向上させ、技術内容を20 %豊かにするなどの効果を公表した ⁵。
- ・ **智慧芽（Zhihuiya）の「Eureka」AIエージェント** – 知財・R&D向けのAIエージェントプラットフォーム。特許明細書作成、技術交底書作成、先行技術検索、翻訳、技術モニタリングなど約20種類

のエージェントがあり、ユーザーの業務フローを理解して自動でタスクを実行する。縦割りドメインデータを利用するため幻覚を抑制し、70 %以上の作業を代替できると謳う ⁶。

- **DeepIP** – スタートアップによるWebサービスで、GPT-5やClaudeなどに1万件超の特許を学習させ、3-5分で明細書（請求項、実施例、摘要など）を自動生成する。生成した文書の新規性・明細書記載の十分性をチェックする機能や先行技術検索も備える ⁷。
- **博簡智慧專利** – 中国系スタートアップが提供するAIツール。170超の特許データベースに連結し、数億件の特許を対象に意味ベース検索を行う。数分で図付きの技術交底書を生成し、関連技術の拡張や権利範囲拡大の提案も行う ⁸。
- **積智湾** – Q&Aサイトで紹介された「積智湾」プラットフォームは、ユーザーの記入した技術内容を「特許語」に変換し、特許申請書の“五書（出願書類）”を自動生成する ⁹。草案内容は人間が再確認して精度を担保する必要がある。

1.3 商標検索・類比分析

商標の類似性判定ではAI画像認識や自然言語処理が用いられているが、生成AIを用いた商標クリアランスツールの公表例は少ない。生成AIよりも従来の画像認識モデルが主流であり、検索の補助や類比候補の提示に活用されている。

1.4 契約書・法務文書分析

- **iFlytek（科大訊飛）** – AI+RPAを組み合わせた契約ライフサイクル管理システムを提供。契約書の自動ドラフト作成、リスク条項の抽出、差分比較、履行状況管理、アーカイブを行い、契約作成効率を80 %向上、審査時間を約10分に短縮したとされる ¹⁰。
- **幂律智能（MeFlow）** – 企業向けの契約管理プラットフォームを提供。テンプレートに基づき自動で契約書を生成し、リスク検知やデータ抽出を行う。ERPやCRMなど企業システムと連携し、データ分析に基づく意思決定支援を行う ¹¹。
- **阿里巴巴「通義法睿」** – 法務向け大規模モデル。法律相談、案件分析、契約書レビュー、文書作成、判例検索などを支援する。契約審査では不足条項やリスクを自動で指摘する ¹²。知財関連文書のレビューにも応用が可能。

1.5 その他ユースケース

- **技術アイデア創出と特許戦略策定** – 星河智源のAI+知財プラットフォームでは、生成AIを用いた「創意探索」機能を提供。チャット形式で過去の特許情報を照会しながら技術アイデアを広げ、特許取得可能性を評価する ¹、¹。
- **翻訳・分類・監視** – 多くのサービスがAIによる特許翻訳、国際分類、特許価値評価、競合分析、技術トレンドモニタリングを提供している。例えば、DeepIPはAIによる翻訳や価値分析、incoPatは特許価値のマッピング分析等を提供している ²。

2. 生成AIを導入する中国企業の事例

企業／機関	取り組み内容	参考情報
中国移動 （China Mobile）研 究院／設計院	大規模モデル「九天」とDeepSeek R1を利用した特許支援AI。発明者の技術アイデアから技術交底書草案を生成し、類似特許を検索し、キーワードや検索式を提案する。Draft自動生成のほか、特許分類の自動化や予備審査機能も持ち、内容の豊かさを20 %向上、作成効率を50 %高めた ⁴ ⁵ 。	発明者へのアンケートや公開説明会によりAI導入を公表。

企業／機関	取り組み内容	参考情報
智慧芽 (Zhihuiya)	2025年4月にAI Agentプラットフォーム「Eureka」を公開。特許検索、明細書作成、技術質問対応、翻訳、技術モニタリングなど20近いエージェントを提供。ユーザーは自分のワークフローに合わせてエージェントを組み合わせ、7割以上の作業削減を実現する ⁶ 。	複数企業への導入事例が示されており、R&DチームやIP部門が採用している。
星河智源 (Mind Flowing)	GPTを活用した知財大数据プラットフォーム。AIによる深層意味理解、多言語・多モーダル検索、AI助手による交底書作成支援、特許価値評価などを提供。交底書内容へのフィードバックや予備審査機能により、審査通過率向上を図る ¹ 。	政府機関や研究機関への導入実績を持つ。
DeepIP	特許明細書の自動生成、先行技術検索、品質チェック等をクラウドサービスとして提供。AES-256暗号化やオンプレミスにも対応し、データ保護を重視する ⁷ 。	スタートアップ企業が提供。料金体系はドキュメント本数に応じた段階制 ¹³ 。
博簡智慧專利	大規模データベースと生成AIを使った技術交底書作成、特許価値分析、競合分析。3分で図付きの交底書を生成し、類似技術の提案や権利範囲拡大支援を行う ⁸ 。	中国内の研究機関や企業が利用中。
AI Pat+ (CNKI／中專中心)	ベクトル検索で特許と学術文献を統合検索し、生成AIが特許要素抽出や技術分析レポート作成を行う ³ 。	研究機関や企業向けの分析サービスとして提供。
iFlytek、MeFlow、阿里巴巴等	契約管理・法務分野で生成AIを用いた文章生成・レビューツールを提供。知財契約や技術ライセンス契約の自動レビューやドラフト作成に利用される ^{10 11 12} 。	契約関連業務を中心とした法務部門向け。

このほか、中国の研究機関ではAIを使って特許分類や特許審査補助を行う試みが進んでいるが、生成AI導入事例の多くは上記の企業に集中している。

3. IP分野向け生成AIツール・サービス一覧

以下は中国企業やスタートアップが提供する主要な生成AIツール・サービスとその特徴である。

ツール／サービス	提供企業	主な機能	特徴
Eureka (エウレカ)	智慧芽 (Zhihuiya)	先行技術検索、明細書作成、技術交底書作成、翻訳、技術モニタリング、質疑応答など20種以上のAIエージェント	縦割りドメインデータとワークフローのルールを組み合わせ、幻覚を抑制。ユーザーはエージェントを自由に組み合わせ、自社ワークフローに最適化できる ⁶ 。

ツール／サービス	提供企業	主な機能	特徴
Mind Flowing（星河智源）	星河智源科技	AIによる意味理解・多モーダル検索、創意探索、交 底書生成支援、特 許価値評価、特許 管理	GPTを活用し、交 底書の予備審査や可 特許性評価など多機 能。多言語・多モー ダル検索やチャット 型インターフェース で初心者でも扱い やすい ¹ 。
DeepIP	DeepIPスタート アップ	特許明細書生成、 先行技術検索、品 質チェック、価値 分析、翻訳	GPT-5/Claudeに学 習したモデルで3-5 分で明細書を生成。 高度な暗号化を実 施し、オンプレミス 導入も可能 ⁷ 。
博簡智慧專利	博簡智慧	意味検索、AI交 底書生成、図面生 成、権利範囲拡大 提案、特許価値評 価	170以上のデータ ベースと連携し、数 億件の特許を対象 とした検索が可能。 交 底書を3分で生成 し、競合分析や権 利範囲拡大提案も 行う ⁸ 。
AI Pat+	CNKI／中專中 心	統合ベクトル検 索、特許＋論文分 析、生成レポート 作成	1.8億件の特許と 6億件の文献を統 合し、技術要素の 抽出や信頼でき るAIGCレポートを 生成 ³ 。
iFlytek Contract Digital Employee	科大訊飛	契約書草案作成、 リスク分析、差分 比較、履行管理、 アーカイブ	AI+RPAにより契 約作成効率を80% 向上し、レビュー 時間を10分に短 縮。OCRや翻訳機 能も備える ¹⁰ 。
MeFlow Contract Management	幂律智能	テンプレートベ ースの契約作成、 AIによる条項リ スク抽出、ERP連 携	契約データの抽出 や自動記録、デー タ分析による意思 決定支援が特徴 ¹¹ 。
Tongyi FaRui（通義法睿）	阿里巴巴	法律相談、案件 分析、契約書レ ビュー、文書生 成、判例検索	深層学習と知識 グラフを組み合わ せた法務用大模 型。契約条項の不 足やリスクを指摘 し、法務部門を支 援 ¹² 。

ツール／サービス	提供企業	主な機能	特徴
Zhichanli AI エージェント	知産力（IPメディア）	知財分野のQ&A、文書生成、判例検索、ビジネス提案	テンセント元宝プラットフォームに展開。ユーザーとの対話を通じて知識グラフを更新し、知的財産のエキスパートとして振る舞う ¹⁴ 。
incoPat	incoPat情報技術	AIによる自然言語検索、特許DNAマップ、検索式自動生成	先行技術調査・無効資料収集を高精度化。自然言語から検索式を自動生成し、類似発明を抽出 ² 。
Baiten（佰騰網）	佰騰知財	AI検索、特許価値評価、技術トレンド予測	108カ国200万件以上の特許を検索でき、AIにより検索効率を80%向上させるとする ¹⁵ 。
AI交底書助手など	複数の大学・プラットフォーム	特許交底書作成支援	モジュール入力から技術交底書草案を生成する「AI交底書助手」などが提供されている。

4. 生成AI活用のメリットとリスク

4.1 メリット

- 研究開発の加速と技術創造支援** – AIによる高度な検索と創意探索機能により、研究者は広範な特許や文献から迅速に知識を得られ、新規技術の着想を得やすくなる。星河智源のプラットフォームでは「創意探索」機能がチャット形式でアイデア発散をサポートし、連続した対話で技術の深掘りができる¹。
- 出願プロセスの効率化** – 中国移動「鲁班AI」などの自動明細書作成ツールにより、明細書の初稿作成時間を50%削減し、内容の豊かさを20%高めると報告されている⁵。DeepIPや博簡智慧專利も3-5分で明細書を作成でき、特許代理人の作業時間短縮に寄与する⁷⁸。
- コスト削減とリソース有効活用** – クラウド型ツールやエージェントサービスを利用することで、特許調査や文書作成を外注せずに社内ですべて完結できる。大規模モデルの利用はサブスクリプション型で提供され、必要な件数に応じた料金を選べる。iFlytekの契約管理システムはレビュー時間を10分に短縮し、法務人材の負担を大幅に減らしている¹⁰。
- 知財戦略の高度化** – AIによる特許価値評価や競合分析により、IPポートフォリオの強化や技術戦略の立案が容易になる。星河智源やincoPatは類似技術のトレンド分析や競合比較を提供し、企業が投資判断を行う際の指標となる²。
- 国際競争力の向上** – 中国は生成AI関連特許の出願件数で世界をリードしており、WIPOの報告では2014-2023年に中国が出願した生成AI関連発明が3.8万件で世界最多となっている。Tencent、平安保険、百度、中国科学院などがトップの出願人である¹⁶。生成AIを活用した知財創出が世界市場での優位性を高めている。

4.2 課題・リスク

1. **機密情報の漏洩リスク** – クラウド型生成AIツールに機密情報を入力する場合、データが外部に流出する可能性がある。多くのサービスがオンプレミス導入や暗号化を提供しているが、法務・技術部門は取り扱いデータを厳格に管理する必要がある。Tencent元宝ではユーザー契約においてAI生成内容に関する権利処理が問題となり、批判を受けて利用規約が改定された¹⁷。
2. **出力内容の正確性と信頼性** – 大規模言語モデルは誤った情報を生成する「幻覚」を起こす可能性があり、専門的な特許用語や法律条文の誤用も懸念される。中国移動や智慧芽はドメインデータやワークフロー規則を用いて幻覚を抑制しているが、最終的な校正は専門家が必要。生成AIの出力をそのまま提出すると新規性喪失や権利範囲の不備を招くおそれがある。
3. **AIが生成した内容の法的責任** – AIによる文書生成過程で著作権や特許権を侵害する可能性がある。特許明細書や技術交底書は既存技術から類似表現を引用する 경우가多く、適切な引用・出所明示が求められる。さらに、商標や著作物の生成では他者のブランドや画像の無断利用が問題となる。
4. **専門家の判断に代替できるか** – 現行法上、特許審査や権利取得には人間の専門的判断が必要であり、AIは補助にとどまる。生成AIが作成した明細書の記載不備は人間代理人が補正しなければならない。AI判断に過度に依存すると、審査基準の理解不足や権利不備の原因となりうる。
5. **バイアスや公平性の問題** – 訓練データに偏りがあると、出力される提案内容や評価結果に偏見が生じる可能性がある。特許価値評価や技術トレンド分析において、意図しないバイアスが戦略決定を誤らせるリスクがある。

5. 法的論点と判例

5.1 AI生成物の著作物性と著作者認定

- **中国の司法判断** – AllBright法律事務所の分析によれば、中国の理論と司法実務は、AI生成物でも人間の独創的な入力があれば作品として認められるという見解が主流である。AIは創作の「ツール」にすぎず、人間による提示語の選択やパラメータ調整、出力結果の取舍選択などを通じて独創性が現れる場合、その生成物は著作権法の保護対象となり、著作者はツールを使用した人間である¹⁸。北京インターネット法院の「春風送来了温柔」事件では、Stable Diffusionを用いて生成した画像が、人間が複数回のプロンプト入力とパラメータ調整を行い個性が反映されているとして美術作品と認定された¹⁹。
- **他国との比較** – 米国では著作権局がMidjourneyを用いて生成した画像の申請を拒絶し、法廷も「人間が創造的制御を行わない限り著作物として認められない」と判断している²⁰。中国とは対照的にAI生成物の保護に慎重である。
- **複数判例の傾向** – グローバル法律事務所（GLO）のコラムも、中国各地の裁判所がAI生成画像の侵害訴訟でAIGCの著作物性を肯定する判決を相次いで出したと報告している。北京インターネット法院や蘇州中級法院は「人間の独創的な入力があればAI生成物も作品となる」とし、初歩的なプロンプト入力だけでは独創性が認められないと指摘する²¹。

5.2 AI関連発明の特許性と発明者認定

- **CNIPAのAI関連発明ガイドライン（意見募集稿）** – 2024年に中国国家知識産権局が公表した「AI関連発明特許出願ガイドライン（意見募集稿）」では、発明者は自然人に限られ、AIシステムや非自然人は発明者として認められないと明記している。AI関連発明を四つに分類し、(1) AIアルゴリズム／モデルそのものに関する発明、(2) AIモデルを利用した応用発明、(3) AI支援下で完成した発明、(4) AIによる自律的生成発明に分けて審査方針を示した。発明者の記載、十分な開示（ブラックボックス問題への対処）、アルゴリズム特徴と技術特徴の相互作用による進歩性判断などが詳述されている²²。AIが自律的に生成した発明については、現行法では発明者不在として取り扱われるため、出願できない可能性が高い。
- **アルゴリズムの特許性** – AllBright法律事務所によれば、特許法第25条では「智力活動のルールと方法」は特許対象ではない。しかし2019年の審査指南改正により、アルゴリズムと技術的手段を組み合わせ

わせた発明は特許可能とされる。生成AI企業はアルゴリズムを具体的な技術問題解決に結びつけ、技術的效果を示す必要がある²³。

5.3 規制とガイドライン

- **生成式人工知能サービス管理暫行弁法（2023年7月施行）** – 国務院が公布した規則。公共向けの生成AIサービス提供者は合法・倫理的な原則を遵守し、著作権や商標など他人の知的財産権を侵害してはならないと規定している。また、データ品質や安全性の確保、個人情報の保護、AI生成コンテンツのラベル付けなどの義務が課される。法規は生成AIの革新を支援しながらリスク管理と責任を明確化する²⁴²⁵。
- **生成式人工智能知识产权指南（T/CECC 42-2025）** – 2025年10月に海淀区で発表された中国初の生成AIと知財に関する団体標準で、北京快手科技などが主導して策定された。著作権・特許・商標・営業秘密の4分野にまたがるIPコンプライアンス・保護の要求を整理し、データ合規、アルゴリズムの特許保護、責任主体の明確化、争議の処理方法などを示している。生成AIモデル開発者、サービス提供者、利用者それぞれにデータ管理や権利確認の指針を与える²⁶。標準は、企業が研究開発を進める際の法的不確実性を減らすことが狙いである。
- **知財宣傳Week（2025年4月）におけるCNIPAの発表** – 国家知識産権局長はAI技術を活用した知財サービスの全チェーン強化を推進し、新産業向けの知財制度整備を加速する方針を示した。AIによる審査効率の向上や知財ガバナンスのデジタル化を進め、知財強国の建設に貢献すると強調している²⁷。

6. トrendと将来の展望

6.1 中国企業の導入状況

智慧芽が2024年4月に公表した調査によると、世界の知財担当者は生成AIの知財業務への価値を高く評価しており、特に特許検索・読み取りの効率化への期待が大きい。中国企業では約12 %がすでに特許業務に生成AIを試験導入しており、22.5 %が導入検討中、65.7 %がまだ検討していないと回答した²⁸。グローバルでは導入率がさらに高く、3分の1以上の企業が試験導入または本格運用に踏み切っている²⁹。調査では、生成AIは「見つける・読む・分析する」プロセスを刷新し、特許分析や技術動向監視への期待が高いことが示されている³⁰。中国企業の知財部門は大規模な申請件数を抱える大企業ほど導入検討が進んでおり、年200件未満の中小規模チームでは試験導入の事例もある³¹。

6.2 グローバル調査と技術動向

Questelの2025年IP業界前瞻研究では、世界500人以上のIP専門家を対象に調査が行われ、AIを導入するメリットが明確になっている。調査結果によれば、76 %の回答者がAI導入に競争優位性を見出し、64 %がAIが将来IP専門職の役割を変えると考えている。また58 %が既にAIソリューションを利用し、46 %は毎日AIツールを使用している³²。最も普及している用途は商標・特許検索や監視で、自然言語検索アシスタントや概要生成、翻訳、チャットボット、画像検索などの機能が特に重視されている³³。データセキュリティの重要性も指摘され、約53 %が安全なSaaSソリューションを好み、24 %がデータの地理的所在を国内に限定することを要望している³⁴。

6.3 今後の展望

- **垂直特化モデルの発展** – 知財分野では一般的な大規模言語モデルではなく、特許や技術文書に特化した「垂直モデル」が広く使われつつある。これにより専門用語や法的要件を正確に扱い、幻覚を抑制することが期待される。各企業は自社データを組み合わせたカスタムモデルを構築する傾向にある。
- **エージェント化とワークフロー統合** – EurekaやMind Flowingなど、複数のAIエージェントを組み合わせ、業務フロー全体を自動化する動きが進む。将来的には特許調査、明細書作成、出願手続き、管理、価値評価までを一貫してAIが補助する「IPデジタルツイン」が普及する可能性がある。

- ・**法制度整備と標準化** – CNIPAのガイドラインや生成AI IPガイドラインが整備され、AIを利用した発明や生成物に関する特許・著作権制度の適用ルールが明確化されつつある。今後はモデルの学習データの適法性、AI生成物の権利帰属、責任主体などの論点を含む包括的な法律制定が予想される。
- ・**人間との協働** – 現在の生成AIは専門家の補助ツールとしての位置付けに留まっており、最終判断は人間が行う必要がある。AIが増産する情報の取捨選択と品質管理が重要であり、専門知識を持つ人材の育成が不可欠である。

7. まとめと提言

中国企業は、生成AIを知財業務に積極的に導入し始めており、特許明細書作成や先行技術調査、契約書分析などで実用化が進んでいる。中国移動や智慧芽のような大手企業は自社大規模モデルを開発し、効率と品質を向上させている。一方、生成AIを利用したツールの多くはまだ補助的な役割に留まり、プロフェッショナルによる確認と調整が必須である。データ漏洩や誤生成のリスクを管理し、法的適合性を確保することが重要だ。

今後の提言：

1. **機密情報管理の徹底** – クラウド型ツール利用時は暗号化とアクセス権限管理を徹底し、可能ならオンプレミス型の導入を検討する。ユーザー規約における権利帰属やデータ利用範囲を事前に確認すべきである。
2. **専門家との協働による品質保証** – AI生成物は初稿として活用し、特許代理人や弁護士が法的要件や技術的正確性をチェックするプロセスを組み込む。AIを過信せず、人間の判断を中心に据える。
3. **法的動向のフォローとコンプライアンス** – CNIPAや地方当局のガイドライン、生成AI IP標準の動向を常に注視し、新しい規制に即した内部ルールを整備する。特にアルゴリズムの特許出願方法、AI生成物の権利帰属などは今後も更新が予想される。
4. **人材育成とAIリテラシー向上** – 知財部門はAIツールを使いこなせる人材を育成し、AIの限界やリスクも理解させる。AIと協働して価値を最大化する能力が求められる。

このレポートが、中国企業が生成AIを安全かつ効果的に活用し、知財戦略の高度化に役立てるための指針となれば幸いである。

- 1 lib.ecnu.edu.cn
https://lib.ecnu.edu.cn/_upload/article/files/c1/eb/e294b1a240718ecc3ac331158bd5/3f305bdb-cfa3-4256-9d57-62b0b08aa544.pdf
- 2 incoPat Reliable and User-friendly Global Patent Database Patent Search Patent Analyze Intellectual Property incoPat
<https://www.incopat.com/>
- 3 知识产权宣传周
<https://www.cnpat.com.cn/Detail/index/id/614/aid/17029.html>
- 4 中国知识产权报 | 中国移动研究院上线专利智能工具——助力研发 赋能未来|研究院_新浪财经_新浪网
<https://finance.sina.com.cn/roll/2024-11-13/doc-incvxpf1195239.shtml>
- 5 中国移动设计院打造鲁班AI+DeepSeek 驱动专利工作降本增效|专利_新浪财经_新浪网
<https://finance.sina.com.cn/roll/2025-03-28/doc-inerczxx7466888.shtml?from=ggmp>
- 6 zhihuiya.com
https://www.zhihuiya.com/news/info_8533.html
- 7 13 DeepIP-智能专利撰写与申请平台
<https://deepip.xyz/>
- 8 博简智慧专利 - AI专利查新检索与撰写平台 | AI工具集
<https://ai-bot.cn/sites/61089.html>
- 9 与知识库对话 - 有哪些助力写专利交底书的ai工具 - WayToAGI
<https://www.waytoagi.com/zh/question/7327>
- 10 合同数字员工
https://www.xfyun.cn/solutions/contract_digital_employee
- 11 MeFlow智能合同管理-合规内控-合同管理软件系统-智能合同-幂律智能-合同比对审查-CLM
<https://meflow.com.cn/>
- 12 通义法睿 - AI平台 | AI工具集 | AI资讯站
<https://www.aipintai.com/post/675>
- 14 知识产权垂用领域首个AI智能体上线——知产力与50万用户共赴智能媒体时代,知产力,为创新聚合知识产权解决方案
<https://www.zhichanli.com/p/1106925500>
- 15 AI 赋能专利查询检索下载 - 佰腾网 - 全球智能专利搜索领导品牌
<https://www.baiten.cn/>
- 16 18 19 20 23 生成式人工智能企业合规及法律尽职调查要点（3）：知识产权篇 - 专业文章 - 上海市锦天城律师事务所
<https://www.allbrightlaw.com/CN/10475/ad0184e9fb4785d7.aspx>
- 17 AI创作内容版权到底归谁？腾讯元宝三改用户协议引争议|用户协议|腾讯|AI_新浪科技_新浪网
<https://finance.sina.com.cn/tech/roll/2025-03-06/doc-inensmt8106784.shtml>
- 21 环球律师事务所
<https://www.glo.com.cn/Content/2025/07-10/1034408455.html>
- 22 中国保护知识产权网
<https://ipr.mofcom.gov.cn/article/gnxw/zfbm/zy/bw/202412/1989537.html>

24 25 生成式人工智能服务管理暂行办法_国家互联网信息办公室_中国政府网
https://www.gov.cn/zhengce/202311/content_6917778.htm

26 《生成式人工智能知识产权指南》团体标准发布并实施-科技-中国消费网
<https://www.ccn.com.cn/Content/2025/10-16/1735057591.html>

27 jetro.go.jp
https://www.jetro.go.jp/ext_images/world/asia/cn/ip/pdf/report_20250428r.pdf

28 29 30 31 zhihuiya.com
<https://www.zhihuiya.com/observer/detail/81007.html>

32 33 34 questel-website.s3.eu-west-3.amazonaws.com
[https://questel-website.s3.eu-west-3.amazonaws.com/](https://questel-website.s3.eu-west-3.amazonaws.com/Questel_2025_IP_Industry_Outlook_Research_Pathwaysto_Productivity_A_lin_IP_CN_8f3f924930.pdf)
Questel_2025_IP_Industry_Outlook_Research_Pathwaysto_Productivity_A_lin_IP_CN_8f3f924930.pdf